

ラッシュ4インプレッション

ハイエンドE N-Bラッシュ3がこのほどラッシュ4にモデルチェンジした。サンデーパイロットが性能と安全性の両立を求めるとどうしてもE N-Bクラスになるのだろうが、その両方に妥協のないライダーが登場した。



性能に妥協なし。

オゾンの高性能グライダーに採用し始めたシャークノーズリーディングエッジがついにラッシュ4に採用された。

もう細かく説明するまでもないこのテクノロジーは、高速性能だけでなくあらゆる速度域で性能と安定性を得ている。

取扱いの目安となるアスペクト比は、ほぼラッシュ3と同じ。オズンは、ハイアスペクトグライダーに対して以前から慎重で、今回もそれが継承された。

テクニカルディーテイル

ついに、ラッシュ4も **6 サイズのラインアップ**となった。MサイズがMS、MLと分けられたことによってこのサイズを多く選ぶ日本人にとって朗報だ。

シャークノーズに関しては、もう詳しい説明はいらないだろう。

オズンの高性能グライダーに採用されたテクノロジーで、サメのようなエアインテークが特徴である。

展開アスペクトは、**5.55**とラッシュ3とほぼ同じ。若干アーチが深くなっている。

セル数は51から57へと一気に増え、作りが複雑になっているにもかかわらずSサイズで300gも軽量化された。

細かいことだが翼端から10番目のセルには、サイドベントホールが開いていない。

去年からのオズンのトレンドで、大きな片翼つぶれが起きた場合の回復をゆっくりと行い反動を軽減させる狙いがある。また、潰れからのスパイラルダイブに入るリスクも軽減されるという。

生地はドミニコ製ナイロンに変更され、軽量化されながら耐久性はさらに向上。

これらのことから、**高性能化され安全性は向上、軽量化しながら耐久性アップ**という良い

ことづくめのグライダーであることがうかがえる。

フライトインプレッション

ランディングして思わず独り言がこぼれた。「いいグライダーだなあ。」飛ぶことを純粋に楽しめたと思った。「人馬一体」この言葉が似合うグライダーだ。

高性能でありながら不安なく思うように動く、手に取るように翼の動きがわかる、まさしくラッシュ4でのフライトは、スポーツをしている実感があつた。

順番が逆になってしまったがテイクオフについて。

キャノピーの立ち上がる速度は風が強くても弱くてもゆっくりで扱い易い。

シャークノーズのためインテークはこのクラスとしては極めて小さい。

インフレーションに不安を感じる方もいて当然だが、既にオゾンの上級モデルでそのあたりは問題ないことが証明されている。無風でも不安はない。

テイクオフしてまず感じたのは、強烈なサーマルでも不安なくセンタリングできたことだ。

センタリングは、ラッシュ3ではターン途中でバンクの戻るような動きが多少あつたがそれが抑えられ、きれいな円を描きやすい。



グライド中の安定感は、今までのラッシュシリーズの中で群を抜いている。ラッシュ3では、潰れの起きる時の感覚がわかりづらい気がしたがラッシュ4では翼の動きが手に取るようにわかる。

そして私の好みとして、アスペクト5.55というのはドンピシャで、扱い易さと性能のバランスとして気に入っている数字だ。

先ほど「人馬一体」という言葉を使ったが、翼端の動きまでしっかり制御できるのはなんとも気持ちが良い。

プロトタイプの際は、グライド中にヨーの動きが出ていたということだが、製品ではしつかりとそのあたりは抑えられており非常に快適であった。

アクセルもボールベアリングプーリーのおかげもあって軽々。

ブレークコードのストロークは、シャークノーズによって確実に広がっている。

高速域での性能はもちろんだが、失速もしづらくなっている。そのためランディングが荒れている時に、多少ブレークコードを引きすぎても今までより安心できると思われる。

ちなみにハンドリングはスポーティーでとっても楽しい。ウィングオーバーは、自分が上手くなったかと思うぐらいスパスパ決まる。

EN-Bを取得しているということで潰れに関しても安心感があるが一応、潰れの回復具合をチェックしてみた。

まず翼端折りだが、10セル目がクローズしているにも関わらず問題なく戻る。片翼50%ほどの潰れの場合は、非常に穏やかな挙動でいきなり激しく回復することもなく旋回に入り始める動きもなかった。おそらく、10セル目の効果があるのではないかと思われる。大きなフロント潰れの際でも挙動は穏やか。潰れのあとの挙動は、いままでのラッシュのなかで一番穏やかなように感じた。

どんな方にお勧めか

性能に関しては、比較はしていないが少し前のEN-C、数世代前のEN-D (DHV 2-3) と比べられるレベルにあると思う。しかし、安全性は確実に上がっているのでリスクを負いたくないが我慢の飛びをしたくないパイロットにお勧めである。